

成長戦略フォーラム

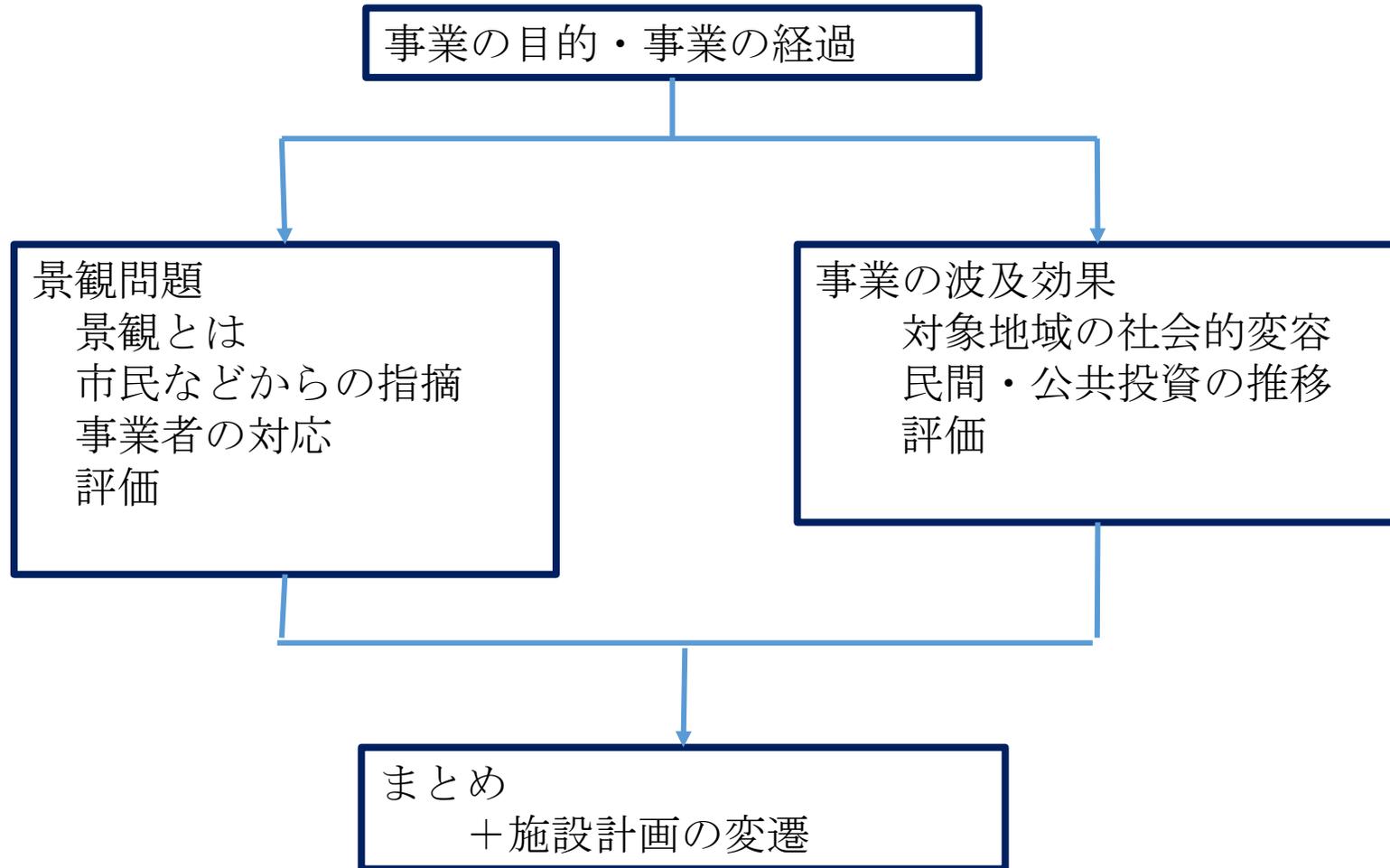
室町一丁目再開発事業の景観形成と波及効果  
ー広がるリバーウォーク北九州の影響ー

# リバーウォーク北九州と景観形成

2015-11-16

出口 隆

# 1 研究のフロー



## 2 市民などの問題指摘(計画発表から開業日まで)

### 1) 市民から (グループA)

- A1 再開発ビルによって小倉城の天守閣が見えなくなるのは問題だ。
- A2 建物をなぜあんなにぐにゃぐにゃ曲げなければならないのだ。
- A3 勝山通りからみると再開発ビルの鉄骨に強い圧迫感。規制を。
- A4 市立中央図書館前から見ると天守閣が再開発ビルと重なって、景観的に問題だ。

## 2) 市景観アドバイザーから (グループB)

- B1 全体計画は、紫川周辺及び勝山公園周辺環境との調和に配慮すること。
- B2 再開発ビルの外壁は、周辺の自然環境、歴史環境に配慮し彩度を低く抑えること。
- B3 外壁は、出来る限りタイル、自然石等の質感豊かな素材を使用すること。
- B4 広告物は、建物と一体化を。

### 3) 新聞紙上で (グループC)

- C1-1 再開発ビルによって海側から天守閣を仰ぐことができなくなった。
- C1-2 再開発ビルと城周辺の景観が溶け合っていない。(市民の声紹介)
- C1-3 あまりにも急激に変化しており、城の情緒が薄れた。(市民の声紹介)
- C1-4 出来上がった時点だけで判断できない。見る側の意識も時代とともに変化する。20年30年かけた行政と市民の取り組みを。(学者の意見)

「B紙2002-09-27」

- C2 小倉城に登る。北側の眺めは、19日にオープンするリバーウォーク北九州で一変。黄、ベージュ、白など5色の奇異なビル群が衝立のように視界をさえぎる。その圧迫感は地上で見るよりはるかに大きい。

「B紙2003-4-17」

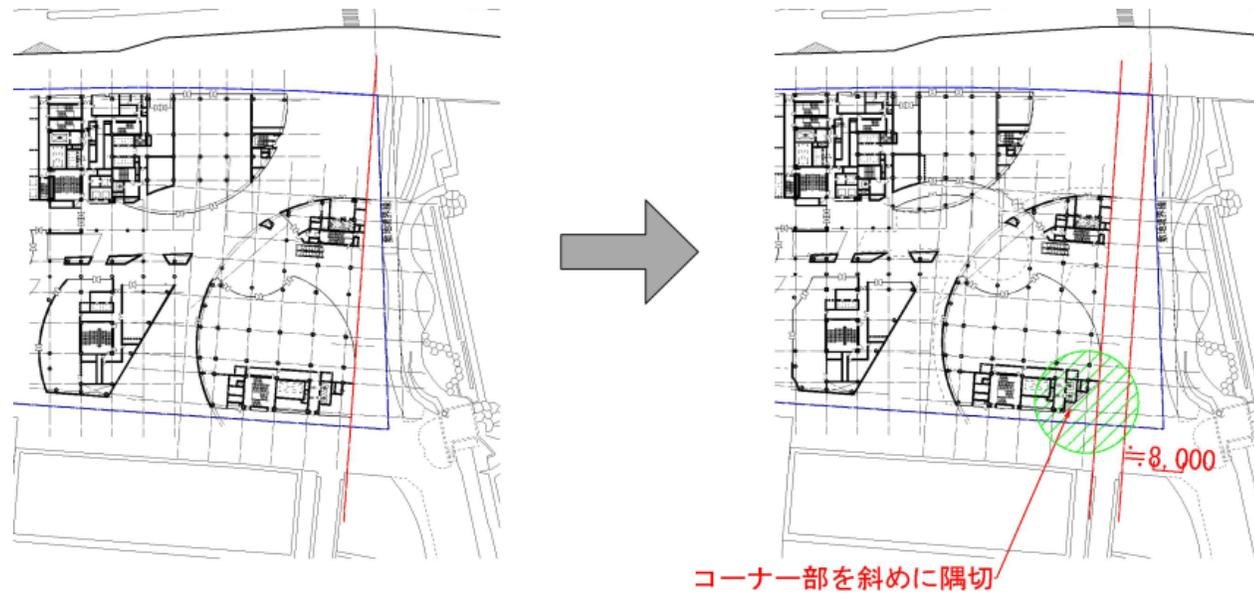
### 3 事業者の対応

- A1 再開発ビルによって小倉城の天守閣が見えなくなるのは問題だ。  
⇒ 天守閣再建前から、小倉玉屋・小倉市役所などが二の丸地区に並んでいて、勝山通りから天守閣が見えたのは、勝山橋の右岸近くからに限られていた。



注;平成11年4月4日。新橋は、長さ88m。

# 基本設計の変更



建設前



建設後

A2 建物をなぜあんなにぐにゃぐにゃ曲げなければならないのだ。

⇒ デザイン上の特徴として、変更せず。

A3 勝山通りから見ると再開発ビルの鉄骨に強い圧迫感。規制を。

⇒ 建物全面の歩道を拡幅し、外装に変化をもたせることで解消。

A4 市立中央図書館前から見ると天守閣が再開発ビルと重なって、  
景観的に問題だ。

⇒ 対応策が検討されたが、工事はすでにほぼ完了していたため  
特段の措置がとれず。

B1 全体計画は、紫川周辺及び勝山公園周辺環境との調和に配慮すること。  
⇒ 趣旨理解。具体的な指導・助言に従う。

B2 再開発ビルの外壁は、周辺の自然環境、歴史環境に配慮し彩度を低く抑えること。  
⇒ 赤系のメタル外装板(パネル)を何種類も作成し彩度を調整。

B3 外壁は、出来る限りタイル、自然石等の質感豊かな素材を使用すること。  
⇒ コンクリート外装板の質感を出すため、1年10か月、曝露試験実施。

B4 広告物は、建物と一体化を。  
⇒ 指導に沿って実施。

C1-1 再開発ビルによって海側から天守閣を仰ぐことができなくなった。

⇒ 「海側」を勝山通りとすれば、ほぼ原状回復。(A1と同じ)

C1-2 再開発ビルと城周辺の景観が溶け合っていない。(市民の声紹介)

C1-3 あまり急激に変化しており、城の情緒が薄れた。(市民の声紹介)

⇒ このような声に理解しつつも、対応の妙手なし。

C1-4 出来上がった時点だけで判断できない。見る側の意識も時代とともに変化する。20年30年かけた行政と市民の取り組みを。(学者の意見)

⇒ 長期的な取組の必要を理解。

C2 小倉城に登る。北側の眺めは、19日にオープンするリバーウォーク北九州で一変。黄、ベージュ、白など5色の奇異なビル群が衝立のように視界をさえぎる。その圧迫感は地上で見るとはるかに大きい。

⇒ 計画・設計時点で配慮不足。

# 竣工後の景観



注;紫川右岸から。平成27年3月11日

## 4 評価 (リバーウォーク北九州開業(2003-04-19)後)

### 1) 表彰等

- \* 北九州市 第3回都市景観賞 受賞者再開発組合と関係団体
- \* 国土交通省 平成19年度都市景観大賞「美しいまちなみ大賞」  
受賞者北九州市

### 2) 新聞紙面 (以下掲載日順)

#### B紙(2003-04-30)

- \* 奇抜な形と色彩を巡っては開業前から「小倉城のたたずまいが失われた」との声が多い。
- \* 天守閣から巖流島など関門の風景が見えなくなった。
- \* 大手門広場に立つと天守閣よりリバーウォークの赤い壁が目立つ。
- \* 一方、この天守閣の風景を冊子の表紙に使用された例も紹介。

## D紙(2003-05-03)

- \* 「まるで積み木崩し」「小倉城が台無し」(来街者の声)
- \* ジョン・ジャーデイ氏の手がけた奇抜な外観は、今なお好き嫌いが分かれるところ。

## C紙(2003-05-15)

- \* 「最近「周囲の建物や景色から浮き立ちすぎた色を使い、景観を損ねていいのだろうか」という見方がされるように」(学識者の意見)  
そして、リバーウォーク北九州の写真と「ユニークな色彩も特徴」と説明。

## B紙(2003-05-20)

- \* 来街者が多かった理由として、「小倉城のお堀や眼前の紫川など開放的な周辺環境」とした運営会社の見方を紹介。

D紙(2003-05-22)

- \* 小倉から博多に向かう新幹線左側に見えていた小倉城天守閣が、リバーウォーク北九州の巨大な構造物の陰に隠れた。
- \* 上棟式後「小倉城の景観が損なわれた」「色も形も奇抜過ぎる」(市民の声)
- \* 開業1ヵ月、「批判はトーンダウン」「街の一風景として根付いたのでは」との運営会社の分析を紹介
- \* 「小倉城に十分敬意を払ったデザイン」(学識者)

## A紙(2003-06-04)

- \* 自己主張の強い建物は建設前から「景観を損ねる」と批判を浴びた。
- \* 建物の中に入って周囲を見渡してみれば、驚くはずだ。新しい景観の発見…。
- \* 新しい建物は街の景観を変化させる。街に新しい可能性をもたらすことも多い。
- \* 景観への関心の高まりは、街が脱工業化を志向し始めた証拠でもあるのではないか。(学者)

## A紙(2006-05-21)

- \* リバーウォーク北九州の色を巡る景観論争が起きている。一方で街に華やかさを期待する風潮は強くなっている。
- \* 小倉城に近接する景観に配慮し、彩度は抑制している。

### 3) アンケート調査

調査目的	街のイメージづくりのため
調査機関	東筑紫短期大学生活文化学科 マーケティング・リサーチ・ゼミ
調査期間	平成17(2005)年10月から翌年1月
調査票配布先	本校および近辺の4年制大学9校
回答者数	女性529人 男性210人 計739人
回答者の居住地	北九州都市圏 女性の24.8%は小倉北区 男性の23.9%は下関市

注；この調査は、東筑紫短期大学生活文化学科マーケティングリサーチゼミ受講生大西慶子ほか「ビバ☆北九州 ～北九州市の"街"をよりよくするためには～」2006による。

# 調査の1 学生が1番好きな色

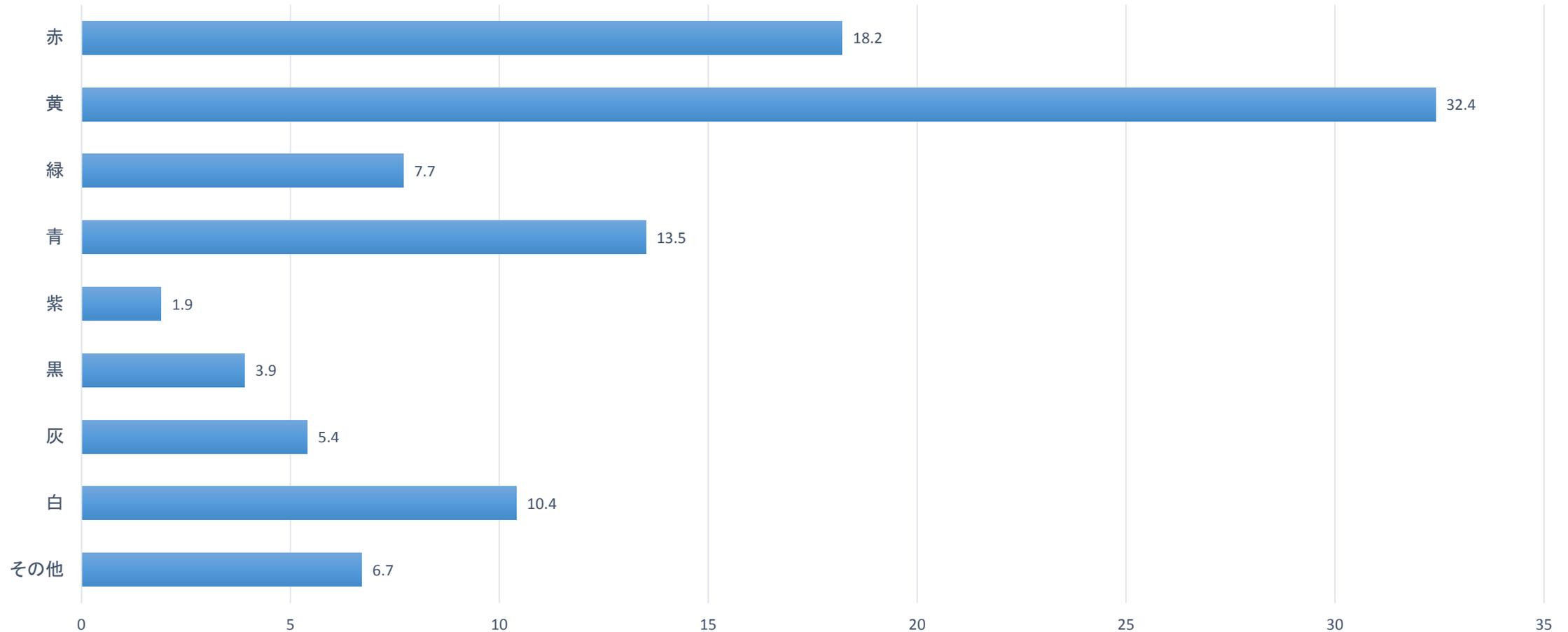
(単位 ; 人, %)

	赤	黄	緑	青	紫	黒	灰	白	その他	計
女性	83	98	51	74	25	73	2	95	28	529
	15.6	18.6	9.6	14.0	4.8	13.8	0.4	18.0	5.2	100.0
男性	20	16	30	67	10	25	3	27	12	210
	9.5	7.6	14.2	32.2	4.7	11.8	1.4	12.8	5.7	100.0
計	103	114	81	141	35	98	5	122	40	739
	13.9	15.4	11.0	19.1	4.7	13.3	0.7	16.5	5.4	100.0

注 ; 『ビバ☆北九州～北九州市の“街”をよりよくするためには～』から作成。

# 調査の2 近辺10カ所の商店街等の街のイメージ

## リバーウォーク北九州のイメージ



対象地；リバーウォーク北九州、魚町銀天街、黒崎井筒屋周辺、八幡中央区商店街、戸畑浅生通り商店街、若松商店街、下関シーモール、下曽根ザモール、門司港レトロ、博多天神街(赤・黄の計54.7%)

## 調査実施者のコメント

紫川や勝山公園など、豊かな自然に囲まれたこの街は、赤や黄といった明るい色をイメージする人が多いようである。

インパクトが強く気分を高揚させる赤や、開放感があり、カジュアル感の強い黄という色は、リバーウォークの外観の色から選んだ人もいると思うが、それだけではないように思う。

# 5 まとめ

## 1) 建物の色や形の問題

A・B・C・D全紙とも、「奇抜過ぎる」などとする市民の声を紹介していて、否定的評価が多い。一方、学生達のような好意的受け止め方もある。学識者は、やや慎重で、将来は変わるとの見方も。

## 2) 視対象としての天守閣の問題

元々、天守閣はあまり見えてなかったこともあり、事業者の対応で、問題は解決したかにみえた。しかし、図書館など南からの眺望・新幹線からの眺望に問題ありとされた。

## 3) 視点場としての天守閣

景観形成上の観点からは、城郭、天守閣を見ることを中心に論議されていた。天守閣からの眺望は想定外。原状回復は困難。

#### 4) 10年の変化は予想外

カットされた空間に新ビル

樹木が繁茂



新築ビル群でRWKも陰



#### 5) 最後に

景観問題は、その時代の文化的雰囲気や流れに密接な関わり。極論すれば、景観問題は時間が解決。一方で、景観形成は、時間に耐えるデザインと質が必要。

この事業で、景観論争がわき起こったことも、波及効果の一つといえる。